

会派行政視察報告書

行政視察の結果について、下記のとおり報告します。

令和5年12月14日

光市議会議長 木村信秀様

光市議会議長 木村信秀
(会派かいこうに同行)

記

- 1 調査年月日 令和5年11月16日(木) 9:30～11:30
- 2 調査市等 青森県むつ市 企画政策部 エネルギー戦略課
- 3 調査結果 別紙のとおり

調査結果

日 時	令和5年11月16日(木) 9:30~11:30
調査市等	青森県むつ市 企画政策部 エネルギー戦略課
調査事項	使用済燃料中間貯蔵施設事業について
説明者	企画政策部 エネルギー戦略課 葛西信弘課長 他

<むつ市の概要>

青森県北東部の下北半島にあり、市としては本州最北端に位置し、南は陸奥湾、北は津軽海峡に面し、2つの海をもつ地形となっている。

- ・総面積 864.12 km²
- ・人口 52,897人(令和5年10月末時点)



<使用済燃料中間貯蔵施設の概要>

中間貯蔵施設は、使用済燃料を再処理工場で再処理するまでの間、一時的に貯蔵・管理する鉄筋コンクリートでつくられた頑丈な倉庫のような施設である。

原子炉から取り出された使用済燃料は、一定期間、発電所内の貯蔵プールで保管された後、金属キャスクという頑丈な容器に入れられ、中間貯蔵施設へ運ばれる。

中間貯蔵施設では、使用済燃料を容器から取り出したり、加工したりするような作業は発生しない。運ばれてきた使用済燃料は、自然に取り込まれた外気で冷やしながらか、施設内で安全に貯蔵・管理される。



事業に対する住民等の理解を深めるため、100回を超える市民説明会、原子力発電所や貯蔵施設の施設見学会(3,400名以上が参加)などが行われた。

<所感>

青森県むつ市の「使用済燃料中間貯蔵事業について」視察を行い、下北半島に位置するむつ市の経済状況、立地状況また環境状況の背景と特有性を知ることが出来た。施設の概要についても建屋規模、乾式貯蔵(金属キャスク)方式や誘致までの詳細な経緯・実態を知ることが出来、非常に参考となった。ただし、稼働に至るまでの住民説明会やその他膨大な時間を費やし現在に至っていることを考えると並大抵の行政努力ではないことを痛感した。しかし、エネルギー政策は国策であり国において最終処分まで責任を負うものであると考える。しかる後に国民は応分によってその役割を果たすという点において、今一度原点に立ち返り国の果たす役割が重要ではないかと感じた。